

(昭和12年9月14日受領)

日本産クキンヂムカデの一新種につきて

(挿圖3個)

Ueber eine neue *Queenslandophilus*-Art aus Japan

(Three Figures)

高 桑 良 興

東京文理科大学動物學教室

Yosioki TAKAKUWA

Zoologische Institut, Science und Literatur Universität, Tokyo

Résumé

Von den *Queenslandophilus*-Arten, die in Japan kommen, ist eine bereits von mir früher in den "Transaction of Sapporo Natural History, Vol. XIV, Pt. 2, 1935" beschreiben worden, und jetzt will ich hier wieder eine neue Spezies beschreiben. Diese Art ähnelt sehr *Q. trichochilus* TAKAKUWA, aber ihre mit *italie* bezeichneten Formen sind hauptsächlich von der letzten zu unterscheiden. Folglich gibt es jetzt 6 *Queenslandophilus*-Arten.

Queenslandophilus monoporus n. sp.

Körperlänge 10 mm, Kopf und Kieferfusssegment kastanienbraun, der Rest des Rumpfes gelblich. 43 oder 45 Beinpaare. Kopf etwas länger als breit, Lg. : Br. = 5 : 4.3, Seitenrand bogig. Clypeus gefeldert, nur eine kleine Area gröber gefeldert, *aber undeutlich umgrenzt*, ganz allmählich in die grossmassigere Umgebung übergehend, vorn 2, seitlich 2, und median vor dem Labrum 2 Borsten vorhanden. Labrum mitte undeutlich, Seitenteile bilden einen, medianen in der Mitte, bewimperten Bogen. 1. Maxille haben 2 Paar gut ausgebildete, fein bestachelte Aussentastern, *die sind nicht Endglied überragen*.

Hüften der 2. Maxille getrennt, nur durch eine polygonal Brücke verbunden, Endglied des Telopodits mit geringen Borsten, Krallen gross und einfach, lange Coxalleiste vorhanden. Kieferfuss geschlossen *fast zum Stirnrande erreichend*, diesen aber nicht überrand. Präfemur und Tarsus je mit einem stumpfen Zahn, proximales Zwischenglied mit Höckern versehen. Tergit zwei-furchig, Haupttergit mit je 6 langen Borsten in 2 Querreihen, Prätergit mit ebensolchen in 1 Querreihe. Sternit mit in 2 Querreihen je 4 langen Borsten. Endsternit trapezförmig, ein wenig länger als breit, nach hinten ein wenig verschmälert, mit 3 Paar Borsten. *Hüftporus* 1, *sehr gross, stärker chitinös, dunkel bräunlich gefärbt*. Endbein verhältnismässig gross, mit wenigen langen Borsten wie die anderen Beine, *ventral keine kurzen Haare*. *Analporen gross, Porenrand und Einföhrungsgang stark chitinisirt* und infolgedessen sehr dunkel gefärbt. Fundort: Nagana, Turugi (Provinz Isikawa).

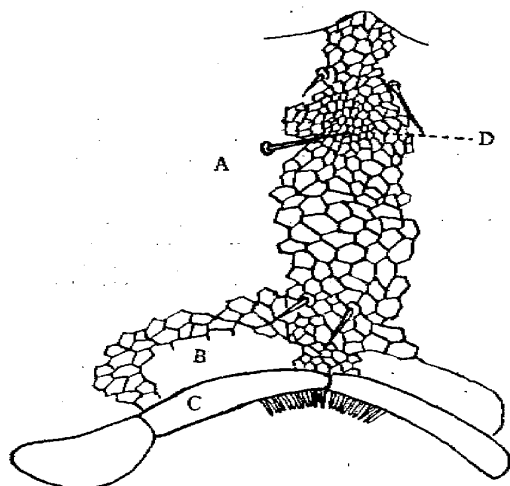
* * *

予は曾て東亞クキンヂムカデ *Queenslandophilus* 屬を掲げ, その内日本産1種と, 同2新種とを記述した (Transaction of the Sapporo Natural History Society, Vol. XIV, Pt. 2, 1935)

及び動物學雜誌 48 卷 1 號, 昭和 11 年 1 月)。その當時尙ほ別に手許に石川縣鶴來町にて獲た 1 個があつたが, 多少不完全である處から, 詳細な調査を成すことができなかった。然るに今度愛知縣立第一高等女學校教諭丹羽彌氏の 1925 年以來得られたデムカデ族を調査させて頂きし處, 前の鶴來産のものと正しく同種と覺しきもの 7 個を發見し, これを精査したが, これは全く 1 新種とすべきものである事を確め得たから, 茲に追記する。本動物はその形態がフチケクキンデムカデ *Q. trichochilus* に似て, 特にその頭鞘・額板・上唇・觸角などは大いに夫に似るが, 額板圓域の境界が明かでなく, 顎肢は額の前縁を越えず, 第 1 小顎の觸鬚は *Q. t.* ほど長くなく, 第 2 小顎端肢末節に刺毛少く, 最終歩肢腹面に短毛を密布することがなく, 背板及び胸板の刺毛は *Q. t.* よりも硬く且つ長く, 特に著しいことは最終歩肢節の基節腺が只 1 個で, その開孔が甚だ大きく, 其縁邊が強く Chitin 化し濃厚に色どられ, 又端孔も大きく, その孔縁及び導管が又右同様に濃い Chitin 色を現はしてゐることである。そこで曩に掲げた檢索表を次の如く少しく改正する。

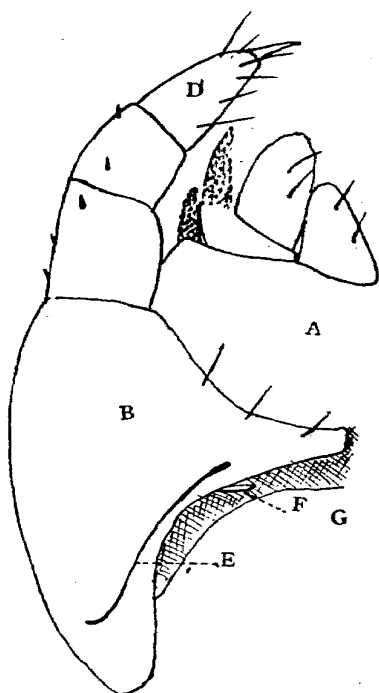
- A. 前方の胸板には腹面腺孔がある..... *Q. goetschi* VERH. (智利)
- A A. 總ての胸板に全く腹面腺孔がない..... B
- B. 最終歩肢に爪がある..... C
- B B. 最終歩肢に爪がない..... ツメナシクキンデムカデ *Q. macropalpus* TAKAKUWA (日本産)
- C. 第 2 小顎の爪が短い..... *Q. sjöstedti* ATT. (Queensland)
- C C. 第 2 小顎の爪が細長い..... D
- D. 上唇縁に小齒列生..... アラクキンデムカデ(新稱) *Q. viridicans* ATT. (日本産)
- D D. 上唇縁に刺毛列生..... E
- E. 最終歩肢節基節腺孔は只 1 個.....
- ヒトアナクキンデムカデ(新稱) *Q. monoporus* n. sp. (日本産)
- E E. 最終歩肢節基節腺孔は數個以上.....
- フチケクキンデムカデ *Q. trichochilus* TAKAKUWA (日本産)

***Queenslandophilus monoporus* n. sp. ヒトアナクキンデムカデ(新稱)**

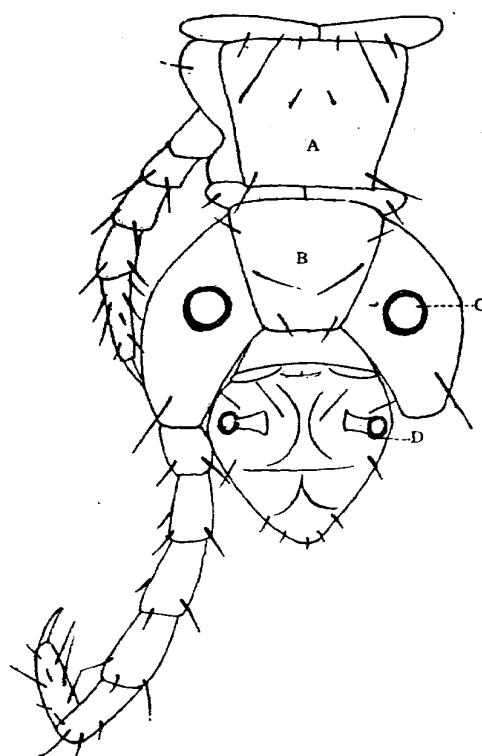


第 1 圖 額板及び上唇: A 前額板, B 後額板, C 上唇, D 額板圓域 (×200)

體長 10 mm, 色彩は頭と顎肢とは少し濃い褐なれども他の部分は黄, 歩肢對數 43, 45, 頭鞘の縦は横より少し長く, 兩側縁は弓形に出張つて居る。額板(第 1 圖)は全部網目をなし, 前方中央に 1 個の小さな額板圓域があり, 圓域は細かい網目をなすが周圍の網目との境界が餘り明かでない。その前に 2 本側方に 1 本づつ刺毛があり, 上唇に接した後額板に無網目の小さな部分が左右に 1 ケ處づつ横つて居り, 1 對の刺毛がその中央に生えて居る。上唇(第 1 圖)の中央片は退化し, 左右側方は中央へ伸びて互に相接着し, 全體が前の方へ出張る弓形となり, その後縁には少し扁たい刺毛が列生して居る。第 1 小顎(第 2 圖)に 1 對の良く發達した, 小刺毛を鱗生せる觸



第2圖 第1 (A), 第2 (B) 小顎の右半: A 第1小顎の基節, B 第2小顎の基節, C 同觸鬚, D その端肢の末節, E Chitinleiste, F 腺孔, G 左右兩基節を連絡する膜 (×200)



第3圖 體の末端腹面: A 最終前節胸板, B 最終歩肢節胸板, C 最終歩肢節基節腺孔, D 端孔

鬚があり、何れもその端肢の末端を越えて前方に抽出することはない。第2小顎 (第2圖) の左右基節は中央にて相癒合せず、網目ある膜にて相連つて居る。Chitinleiste (第2圖 E) は明瞭で腺孔 (第2圖 F) の前に達し、端肢末節には刺毛少く、その爪は細く長い。顎肢は丁度頭の前縁に達し、その前腿節・跗節に鈍齒を有し、腿節に1小瘤起を有す。基節前縁が少しく切れて居り、そこに齒がない。背板に2縦細溝あり、主背板には2横列、前背板

には1横列に各6本づつの、胸板に2横列各4本づつの比較的長い刺毛がある。最終歩肢節 (第3圖) 胸板は縦径が横径より僅かに長く、前縁が後より少し長い。基節腺 (第3圖 C) は左右各1個で腺孔は大で厚く、Chitin化して濃褐色を呈し、最終歩肢は前肢より僅かに太く、他肢と共に少數の強い長い刺毛を有し、腹面に短毛を密生することなく、爪は大きい。端孔 (第3圖 D) は大きく、その導管と共に著しく Chitin 化し、濃褐を呈する。

産地: 名古屋, 鶴來 (石川縣)。

備考: 本屬が遠く Queensland と南米と我國とに離れてあることは面白い。デムカデで頭が長くて一見ナガツデムカデ屬 *Meeistocephalus* に似て居るが、額板の中央に周圍より少し違つた小區域 (第1圖 D) があり、上唇の側片が中央に伸びて互に相接し (同上 C), 第1小顎に觸鬚があり (第2圖 C), 第2小顎の左右基節が中央で相離れ、只膜で連絡され (同上 G), Chitinleiste が著しく發達して居る (同上 E)。これだけのことが見えるなら先づ本屬のものと思はれる。嘗ても述べたやうに、本屬の動物は日本でも中部以西には居らぬやうであるが、有志者の御注意を乞ふ。